

当面のスローガン

- 本年こそ「人権侵害救済法」を制定させよう!
- 狭山再審闘争の勝利をかちとろう!
- 続発する差別事件の糾弾を徹底しよう!



発行所  
解放新聞和歌山支局

〒640-8314  
和歌山市神前 405-3  
TEL 073-473-2301  
FAX 073-473-2302

発行責任者  
藤本 哲史

# 課題解決にむけたとりくみを

## 和歌山県人権施策推進協議会で

和歌山県人権施策推進協議会(以下「人推協」)が参加し、アバローム紀の国でおこなわれた。との交渉が7月19日、執行委員、事務局

人推協は、和歌山県副知事を代表とし、さまざまな人権問題を解決するため、県行政における人権行政を明確に位置づけ、有機的な

連けいと総合的・計画的に強力なとりくみを実施するために設置された全庁的な組織である。下副知事は冒頭「同和



あいさつする下宏・副知事

問題の解決は県政の重要な柱と位置づけ総合的に事業を推進してきた。しかし、まだまだ課題が残されており、これらの課題解決に向け「人推協」で課題を共通認識し、同和問題をはじめさまざまな人権問題の解決に向けてとりくんでいくとのべた。

政の総括と「部落差別の解消の推進に関する法律案」への考え方、②同和行政の現状について、③差別事件の現状について、④東海・東南海・南海3連動地震等にたいする防災計画について、⑤子どもの進路保障と同和教育の課題について、⑥「西光万吉邸・永住の地」にたいするとりくみ等、大きく6点の要求にたいする

### 差別を後世に残さない

#### 対橋本市交渉

橋本市交渉を8月4日、市役所でひらかれた。橋本市から平木哲朗・市長をはじめ32人の参加、支部から35人が参加し、基本要求和個別要求について交渉した。

はじめに、橋本・伏原・名古屋支部を代表して、寺本典司・橋本支部長から「部落差別を子どもや孫に残したくない思いがある。今日の交渉の意義をしっかりとわきまえて、橋本市として答弁をしていただきたい」とあいさつがあった。つづい

て、平木哲朗・市長から「橋本市として同和問題の全面解決にむけてとりくんでいき、家庭の貧困問題も教育と福祉の連携いしてとりくむ」とあいさつされた。つづいて、宮本修作・書記長から「県連としては、11月に対和歌山県交渉を予定し

県の回答を求めた。

先の国会で継続審議になった「部落差別の解消の推進に関する法律案」の成立後、県として条例制定も含めた部落差別解消に向けたとりくみを具体化していくことを強く求めた。また、部落差別を拡散している「鳥取ループ・示現舎」に關しては「全国人権同和行政促進協議会」と情報共有し、法務省へ迅速な対応を求めているとの回答があった。

さまざまな要求について回答があったが十分なものはいえず、今秋の対和歌山県交渉にむけて各市町村交渉を積み上げていくことを確認した。

ている。この橋本市交渉を積み上げ、和歌山県交渉にぶつけていただきたい」とあいさつがあった。

はじめに、基本要求和にたいして、同和对策審議会答申や現在、国会で審議されている「部落差別の解消の推進に関する法案」、教育委員会の同和教育について協議された。支部要求については、伏原支部の要求について協議され、橋本市交渉が終了した。また、残された支部要求の課題については、2次交渉で話し合いがされることが確認された。

## 頑健

連日の猛暑、局地的な豪雨と雷などがつづいていて。先日、ある天気予報士が「日本も今や亜熱帯」といつていたが、8月1日『台湾

の蔡總統が先住民民族に謝罪」というニュースが流れたが、子どもの頃に「台湾には高砂族という人たちがいて」となにかで読んだ記憶がある。現実には台湾政府が認定した数は16の民族で、あわせて55万人近くの人びとがおり、独自の言語、文化、慣習などが存在する。しかし、17世紀頃から中国大陸より渡ってきた人びとによる圧迫によってアイデンティティの破壊がすすみ、劣悪な生活に追いやられ、今日もおおしい差別があるという。台湾政府の先住民対策は10年前からやっとはじまったが、蔡總統の謝罪は、そうした歴史や現実の差別にたいしてのものだ。▼「高砂族」という呼称は、日本の統治時代に固有の民族性を無視し、便宜的に「高砂族」とひとくくりさらされたものだが、当然「謝罪」への責任は日本にもある。さらに「アイヌ民族」がおかれてきた状況と酷似しており、よそ事ではない▼別の話だが、以前フィリピンの先住民「アエタ」を訪ねたときに目撃したが「経済発展」を理由に想像を絶する森林伐採がすすみ、山の民の生活が破壊されていた。今、沖縄でも「ヤンバルの森」が危うい。先住民の権利も含め「環境」は重要な人権のテーマだ。

(S・I)